

祝嶺の型研究会 玄制流空手道

総本部：神奈川県足柄下郡湯河原町鍛冶屋 880-4

《沖縄研修旅行》6/4(土)～6/6(月)参加者：祝嶺の型研究会会員 15人

第一日目 6/4(土)

・羽田空港に早朝集合し、昼前に那覇空港着。

レンタカーに分乗し、沖縄空手の歴史を学ぶために「空手博物館」へ向う。



・空手博物館館長の外間哲弘先生は祝嶺正献最高師範を良くご存知だった。昭和48年に那覇市民会館で行われた躰道の「演武会」に招待された時の思い出話を語って下さった。博物館の壁や天井には、写真・賞状・ポスター等が隙間なく貼られており、防具やワッペンなどの小物も数多く陳列してあった。貴重な展示物とその量に圧倒されたが、特に目を引いた展示物は祝嶺正献最高師範の右中段に構えたお姿の写真だった。祝嶺正献最高師範が沖縄空手の歴史に名を刻んでいる事実を目の当たりにできた事に一同、深い感銘を受けた。展示物のタイトルは「空手古武道家群像」と記してあった。



・18:00 比嘉清彦先生の道場へ向かう。

今回の研修会の目的は、祝嶺正献先生が学ばれた古流空手「首里手」を指導して頂く事である。

初日は「武村のナイハンチ」をご指導して頂いた。比嘉清彦先生のご尊父様比嘉清徳先生と祝嶺正献最高師範は共に岸本祖孝先生を師と仰ぐ兄弟弟子の関係にある。そ

の岸本先生は琉球王国時代の士族である武村先生から空手の指導を受けている。私たち

が知っている「ナイファンチ」とは趣が異なる。しかし、独特とも思える体の使い方の一つ一つが理に適っている。「ナイファンチ」は左右に移動しながら技を行うの「型」だが、技(手・ティ-)の出し方や体の処し方など、理由を含めて分かりやすくご指導頂いた。

第二日目 6/5(日)

・18:00 再び比嘉先生の道場へ

二日目は「首里サンチン」をご指導して頂く。理屈にかなっていない無駄のない動きは、流れるように体を使う、滑らせるように体を使うように構成されていると思われた。型の随所に急所を突く時の手の形や相手の動きを封じる間合いの取り方、技の施し方などが込められている。比嘉先生は細部にわたり実技を交えての丁寧なご指導をして下さった。先生の無駄のない一連の動きから、私たちは「技」だけではない「形」だけではない、古流空手の無形の奥深さを教えて頂いた。



サンチンの手技



相手に力を利用して相手を制する



比嘉清彦先生・比嘉清智館長

執筆担当: 両角